



北畠親房像（部分）

目 次

① 展示紹介

特別展「常陸南北朝史—そして、動乱の中世へ—」

② 収蔵資料紹介

歴史資料課「当館収蔵史料の紹介」

行政資料課「資料が語る 初代茨城県庁」

学芸課「茨城県立歴史館の無形民俗資料記録映像について」

③ トピックス

「常陸南北朝史—そして、動乱の中世へ—」

平成26年2月8日（土）～3月21日（金）

中世日本の14世紀前半から15世紀前半は、まさに動乱の時代であり鎌倉幕府滅亡後の日本は、天皇家が南朝と北朝に分かれ、それが60年も続くという事態が起きました。南北朝の動乱です。常陸国は、南朝・北朝勢力が入り乱れ、全国的にも激しい戦いが展開した地域です。なかでも、この動乱の最中、南朝の重鎮・北畠親房が常陸国に入り、小田城にて『神皇正統記』を著したことは全国的に有名であり、また、この動乱を契機に、佐竹氏、結城氏など、後の戦国時代に大きく発展する勢力が、歴史の表舞台に登場します。

続いて、南北両朝の合一は成ったものの、関東の新たな統治機関となった鎌倉府の支配体制は、足利氏と関東の豪族、さらには鎌倉公方と関東管領の対立を生み、いやがうえにも常陸・北下総は動乱の舞台となりました。そして、その動乱の炎が消えないまま戦国時代に突入します。

一方、この動乱のなかでも、宗教勢力、あるいは庶民の力は大きく伸びました。これまで、体制仏教であった天台宗・真言宗は、庶民を巻き込んで著しく発展し、また武士の気風に合った禅宗も社会に浸透していきます。

さらに、霞ヶ浦沿岸地域では、「海夫」「有徳人」などが交通、流通、金融などに携わり、また、北下総地域は関東と東北地方を結ぶ地域として陸運・水運ともに発達します。このように、激しい動乱にもめげず、人びとは活発に活動していたのでした。

今回の特別展では、こうした中世の動乱の様相を明らかにしながら、新たに発展する宗教勢力、そして躍動する庶民の姿をとおして、中世茨城の真相に迫っていきます。

第1章 鎌倉幕府北条氏の盛衰

南北朝の動乱の時代、常陸国は全国的にみても激しい戦いが展開した地域です。その大きな理由に、鎌倉時代後期から目立ってくる北条氏の常陸・北下総への進出があります。その様子を梵鐘を作った鋳物師たちの視点などから探っていきます。



沙弥善性作 梵鐘 千葉県指定文化財
千葉県成田市・宗吾霊堂



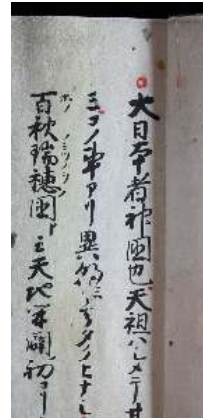
石岡市・東成井山ノ神遺跡出土
仏像鋳型
石岡市教育委員会

第2章 北畠親房と常陸合戦

建武の新政は、北条氏に領地を奪われた常陸の武士の期待を裏切り、領地は自分たちに還らず、足利尊氏のものになっていきます。しかし、その尊氏の政権離反は武士たちにとって、領地奪還の好機であり、その状況下にやってきたのが北畠親房でした。親房に味方することで領地を戻そうとする武士たち、それを押さえる尊氏、その動乱のなかで親房は『神皇正統記』を著しました。常陸の武士たち、足利尊氏、そして北畠親房、それぞれの立場から、南北朝の動乱のなかでも、全国的に最も激しかった常陸合戦の様相をみていきます。



北畠親房像
当館



六地藏寺本
『神皇正統記』
茨城県指定文化財

水戸市・六地藏寺

第3章 武の装い

一般に目にする機会の多い甲冑は、ほとんどが当世具足と呼ばれ、戦国時代の終わり頃から江戸時代にかけて作られたモノです。それ以前の南北朝から室町時代にかけては、大鎧の重厚さから解放された、腹巻・胴丸などが使われました。それは個性では当世具足に及ばないものの、戦場を駆け巡るのに適したものでした。また、長い刀身の薙刀、あるいは元幅の広い太刀などがあらわれるなど、刀剣類も合戦の変化や耐久性を考慮したモノが現れました。そうした動乱の時代の武の装いをみていきます。



長巻 常陸太田市指定文化財 東金砂神社 写真提供：常陸太田市教育委員会

第4章 100年早かった「戦国時代」

関城・大宝城の陥落、北畠親房の吉野帰還によって常陸合戦は終焉しましたが、これは平和のおとずれを意味するものではありませんでした。以後は南朝対北朝から、足利氏対関東の豪族、鎌倉公方対関東管領など、次々と新たな対立構造が現れ、ついに、室町幕府の大軍が結城に攻め寄せ、結城合戦に至る動乱の中世への幕開けにすぎませんでした。そのため、常陸・北下総の「戦国時代」は100年早かったともいえます。また、この動乱の中で、佐竹氏、結城氏が歴史の表舞台に登場する。このように果てしない動乱と政治勢力の変革など中世の転換点の様相をみていきます。



小山永賢義政像 栃木県立博物館（写真提供も含む）



足利安王丸像



足利春王丸像

垂井町指定文化財 岐阜県垂井町・金蓮寺

第5章 中世宗教の新展開

鎌倉時代に興った新しい仏教を鎌倉新仏教と呼んでいますが、実際に仏教が人びとに広く浸透するのは南北朝の動乱以降です。念仏・禅・法華經の教えはもちろん、古代の仏教と思われがちな真言宗・天台宗なども、この時期から広く社会に浸透していきました。常陸・北下総の地域で、改めて教義を整え、新たな布教の手だてを用いながら展開していく仏教各派の動きを探ります。



聖岡上人像 那珂市・常福寺



聖観音菩薩立像（請来） 城里町・清音寺

第6章 中世 水の道 陸の道

海・湖沼・河川に恵まれた常陸・北下総は、古代より水運によって人や物資が運ばれましたが、とりわけ南北朝のころより、その活動が活発になりました。霞ヶ浦沿岸には水運・漁労を担う「海夫」、水運の発達の中かで富を蓄積した「富有人」の活動がみられました。また、北下総地域は関東と東北地方を結ぶ地域として、陸運・水運の機能が向上していきました。ここでは、合戦がうち続く動乱の中에서도、たくましく生きる人びとの姿をあきらかにします。



常滑焼大甕

阿見町教育委員会



古瀬戸黄釉狛犬 重要文化財

千葉県香取市・香取神宮（写真提供も含む）
（史料学芸部学芸課 首席研究員 飛田英世）

当館所蔵史料の紹介

史料学芸部歴史資料課は、茨城県域の歴史に関わる資料の調査・収集・整理・研究・保存及び活用を基本業務としています。具体的には、古文書を中心とした史料の寄贈・寄託による受け入れや購入、マイクロフィルム撮影による写真版の作成などを行っています。

ここでは、近年当館が新たに収集した資料のなかから、水戸藩における『大日本史』編纂事業に関わりの深い二つの文書群をご紹介します。

1. 横山高堅関係史料

本資料群は、近世末期に水戸藩校弘道館の教授であった横山高堅が、史館あるいは私塾で使用していたと思われる『大日本史』筆写本88点から構成されます。水戸市内の個人宅に伝来したものです。

横山が三ノ町に開いた私塾明強塾は、入塾者11人、通いで212人の生徒がおり、当時、漢学の私塾としては最も大きかったようです（『水戸市史』中巻（五））。水戸藩領内における私塾の存在については未解明の部分が多く、私塾経営にあたった横山高堅という人物を研究する上でも興味深い史料です。

当館所蔵の『大日本史』は版本が大半であり、筆写本は数点のみです。筆写本としてある程度まとまった点数を有する本資料群は、その点でも貴重と言えるでしょう。加えて、安積澹白(覚兵衛、『水戸黄門漫遊記』の格さんのモデル)が執筆した「賛藪」(論賛)5点、水戸藩4代藩主徳川宗堯の後叙が含まれる点は、特に注目されます。「賛藪」は文化6年(1809)に全文削除が決定しているため、本筆写本はそれ以前の段階における『大日本史』のありようを伝えるものと言えます。

『大日本史』の編纂過程では多くの筆写本が流布していくことになりますが、それらの伝播過程の研究はほとんど進んでいないのが現状です。本資料群は、その空白を埋める意味でも価値ある史料と考えられます。



(右から順に)

No.1「大日本史 本紀 一」〔巻一～巻三〕, No.80「叙 後序 修大日本史例」, No.81「大日本史 賛藪一」

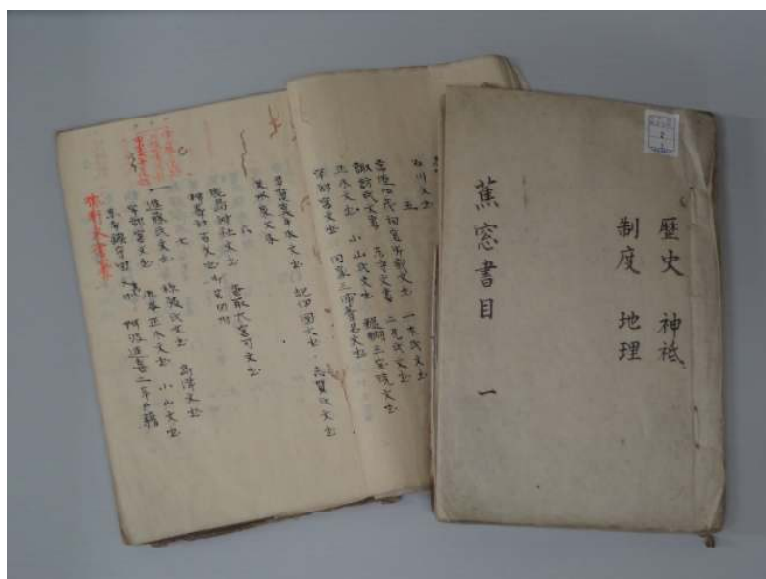
2. 栗田寛関係史料

本資料群は、旧水戸藩士で『大日本史』編纂に功績を残した栗田寛の蔵書目録を中核として、栗田寛関係書簡類、信夫美貴^{しのぶ}草稿類、寛の曾孫で海軍少尉(殉職後中尉)の栗田喩戦没関係軍事史料に大別できます。

水戸藩2代藩主徳川光圀のもとで着手された『大日本史』編纂は、約250年におよぶ大事業となりました。本紀(天皇の伝記)・列伝(臣下や文化人などの伝記)・志(分野別の歴史)・表(年表)の全397巻が完成をみたのは、明治39(1906)年のことでした。

志・表の編纂に多大な功績を残し、『大日本史』を完成に導いたとも言える人物が栗田寛でした。藤田東湖・会沢正志斎・豊田天功らの薫陶をうけた栗田は、24歳の時、彰考館総裁であった豊田の推薦により史館勤めとなり、志・表の編纂を囑されることになります。明治維新後、明治政府や東京文科大学への出仕がありつつも、栗田は亡くなるまで『大日本史』完成のために尽力することになります。「水戸の生んだ明治の碩学」と称される栗田の蔵書目録は、その業績を裏打ちするに十分な歴史資料と言えるでしょう。

一方、栗田寛の孫で喩の叔父に栗田健男がいます。健男は大日本帝国海軍の海軍中將で、「レイテ沖海戦の謎の反転」を指揮した当事者としても著名な人物です。その健男の書状を含む、栗田喩戦死に関わる軍事郵便は、戦時資料としてきわめて興味深いものと言えるでしょう。



(右から順に)

No.2-1「蕉窓書目 一」, No.4「(蔵書目録)」[史 神祇 制度 地理]

(史料学芸部歴史資料課 主任研究員 由波俊幸)

資料が語る 初代茨城県庁

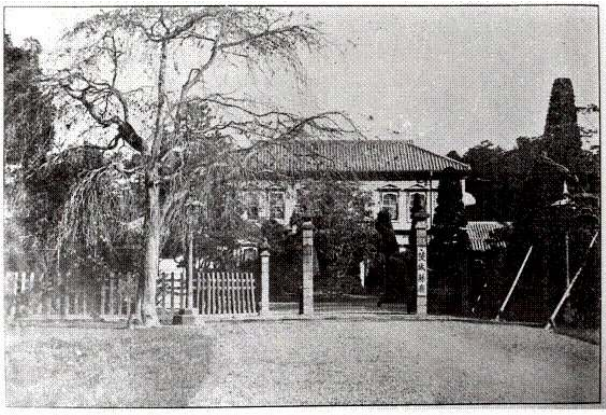
今回は、初代茨城県庁について紹介します。

茨城県は、明治4年（1871）7月の廃藩置県によって誕生しました。このとき、全国は3府302県となり、現在の茨城県域にあった15の大小藩がそのまま県となりました。その後、県の統廃合が進み、11月13日には新たな茨城県と新治県と印旛県の3県が誕生しました。その日を記念して「茨城県民の日」が制定されました。

茨城県の県庁所在地は水戸になり、翌5年1月から弘道館の一角で県の業務がすすめられました。弘道館は水戸藩校として重要な役割を果たしていましたが、明治維新の際の弘道館戦争で多くの建物を焼失し、廃藩後は陸軍省の所管となりました。

陸軍省の土地にどうして県庁が建てられたのか。国立公文書館には、その際の経緯を示す文書が遺されています。

明治14年の「茨城県庁敷地陸軍省ト交換」には、県当局が、陸軍省の管轄となった弘道館の敷地がむなしく荒廃し士族や平民が遺憾に感じている状況を説明し、ここを県庁敷地とするため他の土地と交換できないかと内務省に伺っています。交換先として提案された場所は、東茨城郡河和田村と堀村の原野開拓地の約10ヘクタールでした。陸軍省は、防御線が未確定なため応じることが難しい事情を説明していますが、現在のところは不用だから交換に応じてもよいと回答しています。交換地は、陸軍歩兵第二連隊や工兵隊が置かれた、現在の茨城大学や堀原運動公園の周辺と思われます。



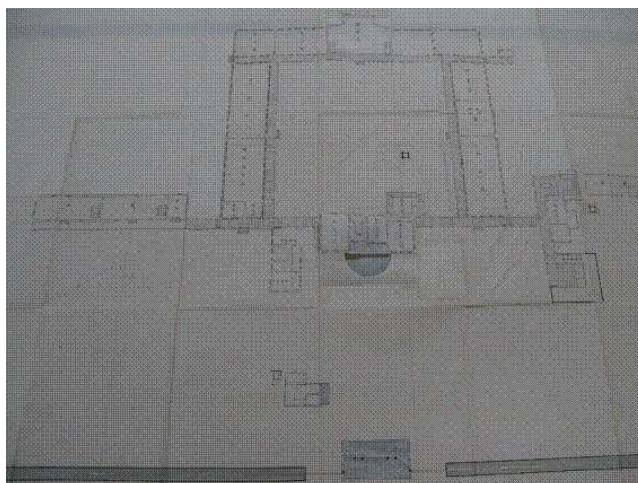
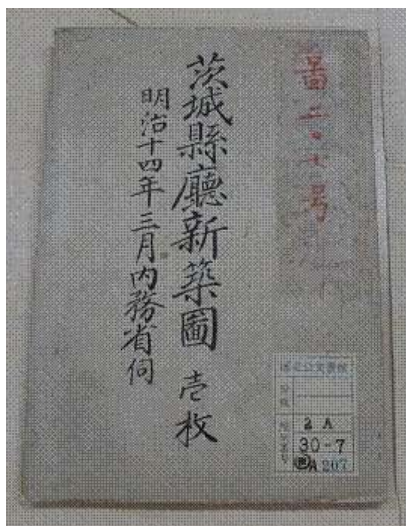
茨城県庁舎（初代）



茨城大学（昭和24年）

庁舎の建築にあたっては、県当局から内務省に何度か伺書が提出されましたが、財政上の問題からなかなか許可が下りませんでした。

当館では、国立公文書館所蔵資料展を、平成25年12月7日から平成26年1月26日の会期で実施しました。展示された「茨城県庁建設の儀再伺」と「付属図面」（国立公文書館蔵）から、弘道館敷地5万坪の一部を割いて、木造一部2階建ての県庁舎が設計されたことがわかります。庁舎は、明治15年5月に完成しました。



茨城県庁新築図 1 枚

茨城県庁新築図面（左・右とも国立公文書館所蔵）

「茨城県庁新築図面」を見ると、玄関とその反対側が２階建てで、その他回廊部分は平屋建てであったことがわかります。２階部分の設計図は別紙に描かれ、重ね貼りされています。

当館所蔵の行政文書、「行 1 2—4 県有財産
台帳<県庁・各廊>」によると、明治末年の県
庁舎の敷地面積や各室の構造や長幅が分か
ります。また、敷地内の立木の種類や本数
も記されています。その一部を右に紹介し
ます。

さて、この県庁舎は、現在のどの場所に建てられていたのでしょうか。

現在の三の丸庁舎（２代目県庁舎）の場所でしょうか？

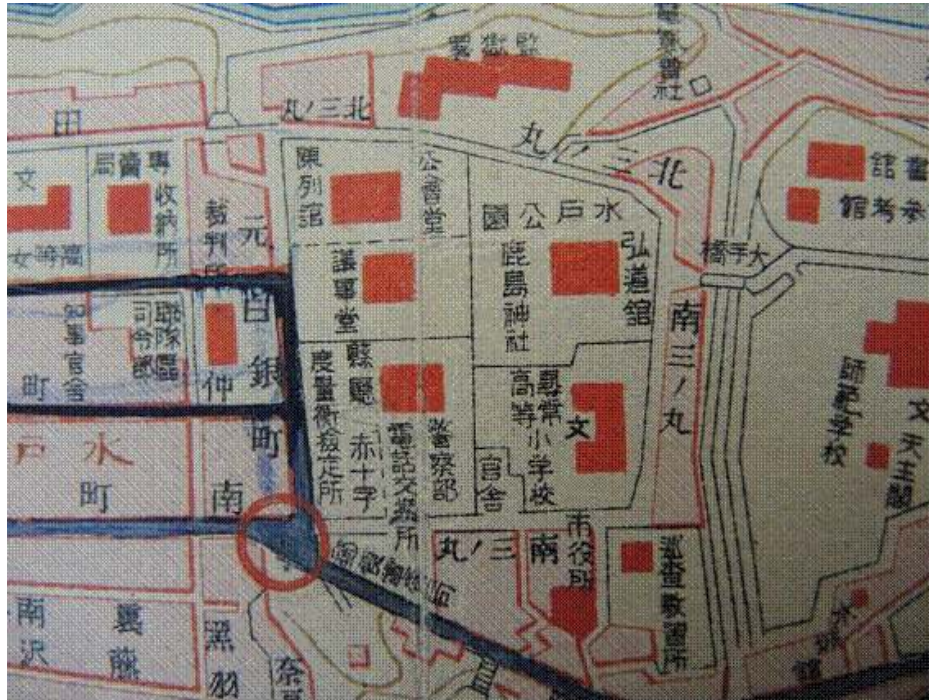
実は、違います。

大正7年に茨城県が発行した地図によると、現在の県立図書館の場所にあったことがわかります。次頁に地図の一部を拡大して掲載します。旧字体の「縣廳」がわかりますか？

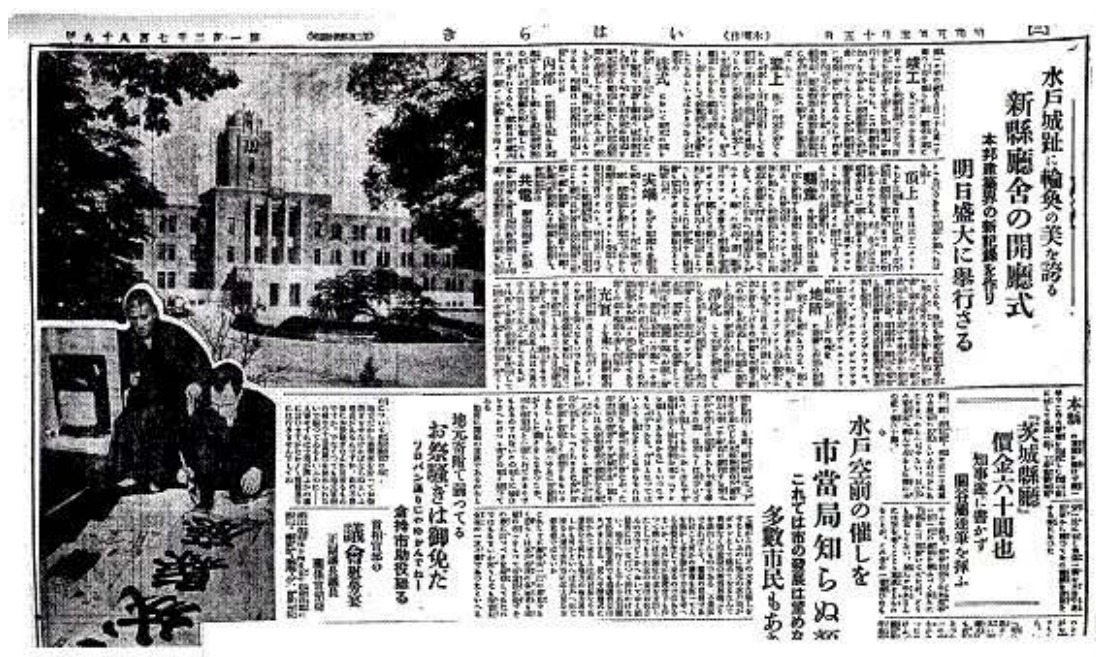
ここで紹介した初代県庁舎は、明治・大正と約45年にわたって使われました。

[illegible]

行 12—4 県有財産台帳＜県庁・各庁＞



現在、三の丸庁舎としておなじみの2代目茨城県庁舎は、昭和4年（1929）4月24日に起工されたもので、完成（竣工）は昭和5年5月15日のことでした。当日の「いはらき」（現在の『茨城新聞』）の一部を掲げます。（詳細は閲覧室でご覧ください。）



いはらき 昭和5年（1930）5月15日版

大切に保存された「資料」からは、歴史を跡づけることができます。歴史館にはこれらの資料が保存されておりますので、どうぞご利用ください。

（史料学芸部行政資料課 首席研究員 富田 任）

茨城県立歴史館の無形民俗資料記録映像について

（当館の記録映像製作事業について）

当館学芸課（民俗部門）では、平成 7 年度より「無形民俗資料記録映像」を製作し、茨城県の伝統的な民俗行事を次世代へと伝承していく一助としています。具体的には毎年、県内各地に残る民俗芸能・年中行事・伝統技能のいずれかを記録対象に選び、その行事や技能の一連の流れを簡潔な展示用映像（30 分程度）と、長時間の研究用映像（60 分程度。当館での研究用資料）の形で記録保存し、展示・講座等に活用しています（これまでの製作物は別紙一覧参照）。本年度は年中行事として「素鷲神社祇園祭（小川の祇園）とトウヤの行事」と題し、小美玉市小川の素鷲神社を中心に行われる祇園祭と、4 町の氏子から選ばれて祇園祭の行事を取り仕切る役職であるトウヤ（當家）のしきたりを記録しました。今回撮影した映像は、平成 26 年度開催予定のテーマ展「まつり—茨城の春祭・夏祭—」の期間中に当館ロビーで上映予定です。



【写真】本年度製作の記録映像「素鷲神社祇園祭（小川の祇園）とトウヤの行事」より
（左）町内同士の口上のやり取り （右）翌年の當家を決める「おみくじ式」

（無形の民俗資料と記録映像）

民俗学は各地の習俗・しきたりを対象に、人々の日常生活の移り変わりを明らかにする学問であり、当館でもいわゆる民具（日常の生活用具）を中心に収集しています。しかし、民俗部門が収集するものの中でも、例えば芸能・儀礼・年中行事・工芸技術・民俗音楽などはその多くが無形の文化財であり、文字記録や物的資料を単独で収集・展示しても、その意義を十分に伝えることはできません。また、現在そうした伝承自体が、社会情勢の変化とともに消滅してしまうことも多くあるのです。

人々のこうした無形の行いを民俗資料として後世へ伝え残すためには、写真や映像・音声といった視聴覚に訴える資料も含めて総合的に保管されなければ、民俗行事の全体をとらえて再現することは不可能です。例えば踊りや道具を使う時の身体の所作、楽器の演奏や人々の掛け声・唄声など、行事の中で重要な意味を持つ無形の要素は多くあります。祭礼や民俗芸能の行われる場の様子を総合的に記録し、見る人々の想像力を喚起する手段として、映像資料は極めて有効な手段なのです。

(今後にむけて)

当館製作の記録映像の媒体は当初はVHSビデオでしたが、主流となる媒体の移り変わりに伴い、平成21年度以降は全てDVDで製作しています。映像資料の宿命ですが、過去の貴重な記録映像を残すためにも、古い媒体の更新作業は時代に応じて常に必要となります。

当館で製作したこれらの記録映像は、自由公開という形にはなっていませんが、今後も当館の展示や出前講座で積極的に活用してまいります。また通常の館蔵資料と同様、他館や学校団体での教育活動への利用の場合は「資料貸出申請書」を提出の上、ご利用いただくことが可能です。

今後も、有形の資料(もの)だけではなく民俗行事などの中にある、人々のこころの部分まで伝えられるように、映像資料のよりよい活用や展示のあり方について、考えを深めていきたいと考えています。

(史料学芸部学芸課 資料調査専門員 大里正樹)

茨城県立歴史館製作の「無形民俗資料記録映像」一覧

製作年度	タイトル	撮影地	時間	媒体
平成 7 年度	張り子だるま	ひたちなか市	約 15 分	VHS
平成 7 年度	鳥追い祭り	北茨城市／筑西市（旧下館市）	約 10 分	VHS
平成 8 年度	鷺子彫	常陸大宮市（旧美和村）	約 15 分	VHS
平成 8 年度	西金砂神社小祭礼	常陸太田市（旧金砂郷町）	約 15 分	VHS
平成 8 年度	大子碇	大子町	約 15 分	VHS
平成 9 年度	盆綱	茨城町／小美玉市（旧小川町）	約 15 分	VHS
平成 9 年度	金砂郷のそばづくり	常陸太田市（旧金砂郷町）	約 15 分	VHS
平成 10 年度	延方相撲	潮来市	約 15 分	VHS
平成 10 年度	太陽と月のまつり	常陸太田市／稲敷市（旧江戸崎町）	約 15 分	VHS
平成 11 年度	棒ささら	水戸市／ひたちなか市／石岡市	約 15 分	VHS
平成 12 年度	巫女舞神事	潮来市	約 15 分	VHS
平成 13 年度	盆船流し	北茨城市	約 15 分	VHS
平成 14 年度	鹿島神宮御船祭	鹿嶋市／潮来市	約 20 分	VHS
平成 15 年度	伝統工芸品 常陸太田の雪村うちわ	常陸太田市（協力：坪総子氏）	約 14 分	VHS/DVD
平成 16 年度	茨城の年中行事Ⅰ（①浅間様／②御太刀／③オビシヤ／④節分追儺式）	①稲敷市／②河内町／③取手市／④稲敷市（大杉神社）	約 22 分	VHS
平成 17 年度	茨城の年中行事Ⅱ（①へいさんぼう／②大日様／③盆綱／④盆船流し／⑤大飯まつり）	①かすみがうら市／②稲敷市／③小美玉市（旧小川町）／④北茨城市／⑤桜川市	約 29 分	VHS
平成 17 年度	茨城の年中行事Ⅲ（①部垂の祇園／②鷺子さんの祇園／③アワアワ祇園／④馬出し祇園／⑤撞舞／⑥藤切り祇園）	①②常陸大宮市／③小美玉市（旧美野里町）／④行方市（旧麻生町）／⑤龍ヶ崎市／⑥かすみがうら市	約 33 分	VHS/DVD
平成 18 年度	茨城の奉納相撲（①延方相撲／②化蘇沼稲荷神社奉納相撲／③常陸国総社宮例祭奉納相撲／④栗山観音祭礼相撲／⑤鹿島神宮相撲祭）	①潮来市／②行方市／③石岡市／④八千代町／⑤鹿嶋市	約 28 分	VHS/DVD
平成 19 年度	茨城の祝い舞（①水戸太神楽／②三河万歳）	①水戸市／②筑西市	約 43 分	VHS/DVD
平成 20 年度	筑波山お座替わり神事（平成 20 年春・秋）	つくば市	約 20 分	VHS/DVD
平成 21 年度	国選択無形民俗文化財 鹿島みろく	鹿嶋市／熱海市（初木神社）／小田原市（寺山神社）	約 20 分	DVD
平成 22 年度	茨城の年中行事Ⅳ～天狗信仰の行事～（①大杉神社あんば様／②下石崎のあんば祭り／③玄生地区の大杉様／④西丸山祈祷ばやし／⑤愛宕神社の悪態祭り）	①稲敷市／②茨城町／③鉾田市／④つくばみらい市／⑤笠間市	約 27 分	DVD
平成 23 年度	茨城の年中行事Ⅴ（①タバンカ祭り／②一つもの神事／③八日まつり）	①②下妻市（大宝八幡宮）／③桜川市	約 25 分	DVD
平成 24 年度	筑波山禅定と筑波講	つくば市	約 35 分	DVD
平成 25 年度	素鷺神社祇園祭（小川の祇園）とトウヤの行事	小美玉市（素鷺神社）	約 45 分	DVD

トピックス

平成 25 年度 下半期の展示・行事から

「いちょうまつり」でお茶会を開催 11 月 24 日（日）

茨城県立歴史館では、11 月の土・日・祝日を中心に「いちょうまつり」として様々なイベントを行ってきました。そのなかから、高校生によるお茶会の模様を紹介します。

11 月 24 日（日）、県立東海高等学校の茶道部による茶会が催されました。12 人の部員の皆さんが、お点前(てまえ)、お茶の点て出し(たてだし)、受付・案内などを交代で行い、お茶会は円滑に進みました。

各回の茶席には、25 名ほどのお客様を案内し、8 席で 250 名の方を抹茶とお菓子でもてなしました。また、今回の茶会は、県ゆかりの岡倉天心(おかくらてんしん)の没後 100 年と板谷波山(いたやはざん)の没後 50 年を記念して、天心による漢詩の掛け軸と波山による「青磁袴腰香炉(せいじはかまごしこうろ)」を床の間に配置しての特別なものとなりました。

お茶が点てられる間、茶道部の部長がそれらのお道具の説明を行い、指導者の塙教諭が生徒の皆さんの練習の様子などを伝えると、会場では感慨深げにうなづく姿が見られました。「良いお道具を見られて勉強になりました」「おいしいお茶でした」「高校生のお茶会にまた参加したい」など、大変好評でした。



歴史館探検ツアー 12月15日（日）

普段見ることができないバックヤードの探検ができる，年 2 回の大変好評のイベントです。今回は，考古収蔵庫内の古い瓦に触れたり，パソコン操作で閲覧室のデジタル資料を見たりという内容が盛り込まれました。縄文模様をつけた粘土をキーホルダーにして持ち帰り，「記念になりました」と話す小中学生の笑顔が印象的でした。



来年度も皆様にお楽しみ頂けるようなイベントをご用意してお待ちしておりますので，どうぞお気軽にお越し下さい。各行事などについてのお問い合わせは，

茨城県立歴史館 教育普及課 電話 029-225-4425

または，ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。

お知らせ

喫茶コーナー

春の特別展開催期間中 2月8日（土）～3月23日（日）の土・日・祝日に，
挽きたてコーヒーなどをお楽しみいただける喫茶コーナーを開設いたします。
皆様のおいでを心よりお待ちしております。

